

少量部品対応で オンリーワンめざす

「生声活動」で明るい工場づくり

アイシン新和株式会社
代表取締役社長

安藤 英明 氏



で、残り95%は数週間から数年に一度の少ロットですが、これだけの商品点数を抱えている部品メーカーは、恐らく世界にもないと思います。

鑄造ラインは3本あり、1つは最新設備ですが、2本は50年前から稼働しています。最近まで鉄の溶解にコークスを使っていましたが、CO₂の削減に向け、1本は電気溶解に切り替え、もう1本もヤシガラ由来のバイオ燃料の導入を検討しています。

—中身を変え競争力アップ—
カーボンニュートラルの取り組みも進めていらっしゃいますね。

今や環境への配慮なくして企業活動は成り立ちませんが、カーボンニュートラルを目指すことは、エネルギーコストを削減し、競争力が上がるという考え方で進めています。

アイシン高丘ではエネルギーのジャストインタイム「エネJIT」という考え方を持っており、当社も金属を溶かす工程を見直し、溶解した状態で金属を保温するのの一部をやめ、使用電力量を大幅に減らすことができました。ただ、電気料金の値上げで電気代が高くなったのが誤算です。

2021年に社長に就任されてからの取り組みを教えてください。

経営方針の中に「3つの原点復帰（設備・標準・意識）の早期完了」があります。私は機械加工の設備導入及び保全を長年務めてきました。当社へ赴任して工場に入ったとき、スムーズに動いていない機械が気になりました。設備を一斉点検して改善点を見出し、すぐに設備の修理・更新に着手しました。現在、計画の9割まで進んでいま

す。同時に機械・道具を正しく使うよう、作業の標準化も進めてきました。

あとは人の意識です。強制されてやるのではなく、「なぜこれを守らなくてはいけないか」という意識が大切です。

—声を吸い上げ意識づけ—
そうした意識づけは、どのようにされているのでしょうか。

社長に就任してから「小さなことでもなんでも言おう、みんなの声で元気で明るい工場づくり」というスローガンを打ち出しました。米国の会社で指揮を執っていたときに始めた、社員1人ずつから直接話を聞く「生声活動」を、当社でも実践しています。

標準化は一度やって終わりではなく、現場の技能員の方から問題点を吸い上げて、全員がやりやすい作業にしないといけないのですが、本音を聞き出すのはなかなか難しいものです。経営方針などは現場の班ごとに説明していますが、一人ひとりに「格好いい言葉を並べているけど、そんなことできないよって不満に思うことを教えて」などと聞いています。

最初は何も言ってくれず、2年目に少し不満が出て、3年目によく「暗くて作業しにくい」「あそこが大変そうだ」などと建設的

な意見が出るようになってきました。これこそが「意識」につながるものです。出た意見を取り入れて改善し、対応できないものにはきちんと回答しています。

この活動は、外国籍の派遣従業員とも通訳を介してやっており、今は労働組合も一緒になって聞いています。

次世代育成支援対策行動を策定しておられます。

社員のキャリア形成の支援です。例えば監督者向けには一定の教育を受けることなどを義務づけていますが、昇進を目指す人が減る傾向があるので、教育プログラムと同時に給与・手当の見直しも行っていきます。

また、社外で教育を受けたいという人にも支援しており、この制度で社会保険労務士の資格を取った人もいます。

女性の活躍についてはいかがですか。

昨今の売り手市場で、工業高校の卒業生の採用が難しい中、普通科卒の女性が入社しています。生声活動では女性の方が活発に意見を出してくれ、女性目線の指摘で新たな気付きをもらうことも多々あります。

現場で女性の係長や班長は何人も活躍していますし、今年1月には女性初の総務部長が就きました。

今後の展望を教えてください。

自動車の電動化が進み、エンジン周りの量産品が減少する中で、EV関連で鑄造技術が必要とされる仕事の増加は見込めません。

これまで4,000点もの多品種を扱ってきた対応力を強みにしたいと考えています。少量部品に対応することは効率が悪く、当社の足かせでもあったのですが、それは他の部品メーカーも同様で、さらには多様な車種を抱える自動車メーカーの悩みでもあるのです。

電動化が進み、少量部品はさらに敬遠される中で、逆に、適正かつ低コストで小物少量部品を製造できる会社としての地位を確立し、オンリーワンの生産会社を目指していきます。

座右の銘をお伺いします。

この会社に赴任して「温故知新」という言葉を実感しています。鑄造は原始的な技術で、古くからのノウハウが詰まっています。トラブルが起こるのは、その何かが上手く伝わっていないからで、原点を振り返って諸先輩が積み上げてきた仕事を学び直し、次世代へつないでいかなくてはいけないと思っています。

根本を正しく学び、オンリーワンになるためのチャレンジを重ねていきます。

会社概要

アイシン新和株式会社

設立：1964(昭和39)年11月
所在地：入善町入膳2458
資本金：4億7,600万円
事業内容：自動車部品を主体とする鑄造、機械加工製品の製造・販売
従業員数：453名(2024年9月現在)
売上高：134億円(2024年3月期)
関係会社：新和工業㈱
URL：https://www.aisin-sinwa.co.jp



経営方針を説明しながら従業員の生の声を聞く

略歴

1964年4月愛知県瀬戸市出身。名城大学理工学部卒業後、1988年アイシン高丘㈱入社、2012年常務役員、17年専務役員、米国現地法人CEOを兼務。2020年アイシン新和㈱監査役、顧問を経て、2021年6月から代表取締役社長。

創立60周年を迎えられました。

1964年、自動車産業が進展する中、富山県と入善町から積極的な誘致活動があり、親会社の高丘工業㈱(現アイシン高丘㈱)の子会社として設立しました。県内初の自動車部品製造工場で、6月には町民にも開放して感謝祭を催し、楽しんでもらいました。

事業内容をお伺いします。

当社が製造するのは、0.1~10kg

程度の小物鑄造部品で、94%が自動車用です。エンジン周りの小さな部品や、駆動系の部品、ブレーキパーツなど、そのうちトヨタ向けが約80%を占めています。年間の生産重量は約6万6,000t、生産個数は2,500万個になります。

砂型による鑄造法なので、低コストで少量生産に対応でき、取り扱っている品番は4,000点にも上ります。このうち量産は5%だけ